

腸管出血性大腸菌（O157）感染症の集団発生について

令和7年8月29日（金）午前10時40分頃、川崎市高津区内の認可保育所から複数の体調不良者がいる旨の報告が川崎市保健所にありました。これまでの調査から、9月3日（水）現在で計32人に腹痛、下痢、血便（もしくはその一部）の症状があり、そのうち園児3人が腸管出血性大腸菌（O157）に感染していることを確認しました。なお、5人の方が入院しています。

腸管出血性大腸菌感染症は、夏に多い傾向があり、症状には個人差がありますが、下痢、腹痛、血便、発熱などの症状がみられ、重症になると溶血性尿毒症症候群（HUS）※を引き起こすことがあり、特に抵抗力の低い乳児や高齢者に注意が必要な感染症です。

外出や排便の後の手洗いや、食肉等は十分に火を通すことなどによる感染予防が大切です。

※ O157などの腸管出血性大腸菌に感染することによって貧血、血小板減少、急激な腎機能の悪化などが引き起こされる病気

【発生状況】

	有症状者数	入院者数（再掲）
園児（57人）	24人	4人
職員（23人）	8人	1人
合計（80人）	32人	5人

当該認可保育所では、施設等の消毒等を行い感染拡大防止のための対応に取り組むこととしており、9月4日（木）から9月6日（土）までを休園としています。

保健所では園児、職員、感染者家族等への健康調査や喫食状況等の調査を行っています。

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者、患者家族及び当該施設が特定されることがないように、格段の御配慮をお願いします。

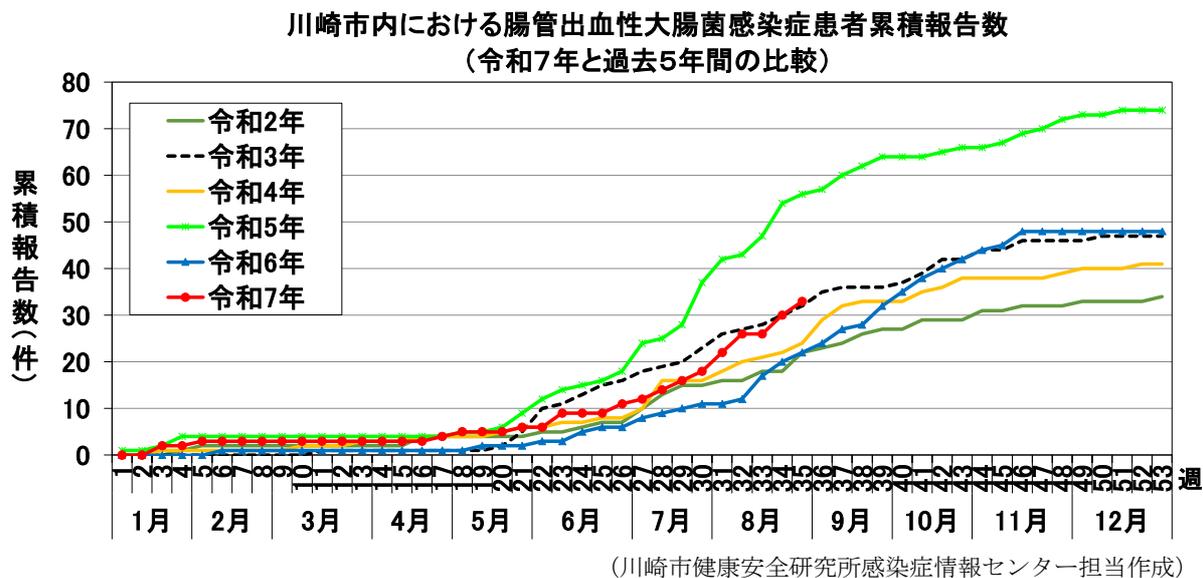
連絡先

（腸管出血性大腸菌（O157）に関すること）
川崎市健康福祉局保健医療政策部
感染症対策課 吉川
電話：044-200-2446

（高津区内の認可保育所に関すること）
川崎市こども未来局保育・幼児教育部
保育第1課 奈良田
電話：044-200-0121

【参考】

○市内腸管出血性大腸菌感染症発生状況（感染症発生動向調査事業より）



○【腸管出血性大腸菌感染症発生状況】（令和7年9月3日時点） （件）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
川崎市	34	47	41	74	48	33 ^{※1}
全国	3094	3243	3370	3826	3748	2246 ^{※2}

※1 令和7年第35週（令和7年8月31日）まで / 今回の集団発生事例3人は含まれていません

※2 令和7年第34週（令和7年8月24日）まで

○腸管出血性大腸菌について

ベロ毒素という毒素を作る病原性大腸菌の一種で、O157を代表として、O26、O111、O103などの多くの種類があります。症状には、個人差がありますが、下痢、腹痛、血便、発熱などがみられ、重症になると溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こすことがあります。例年夏季に多く見られますが、冬季にも発生します。家畜や感染者の糞便を通じて汚染された食品・食器・手指等を介して、口から感染しますが、十分に加熱調理すれば、細菌は死滅します。感染防止には下記のような点に注意してください。

○感染防止のための注意点

- 1 帰宅後、食事前、トイレやおむつ交換の後は、手・指を石けんと流水でよく洗う。
- 2 動物とふれあった後には、必ず、石けんを用いて十分に手洗いを行う。
- 3 腸管出血性大腸菌も、食中毒原因菌のひとつです。以下の項目についてもご注意ください。
 - ・生で食べる野菜などと、加熱する肉などを一緒に調理しない。まな板や包丁などを別々にする。
 - ・加熱調理を十分に行う（中心部が75℃で1分以上）。
 - ・調理器具を清潔に保つ。必要に応じて熱湯や漂白剤で消毒する。
 - ・バーベキューや焼肉等をするときは、肉を焼く箸と食べる箸を別々にする。